

(特別活動)

「主体的・対話的で深い学びを実現するために
自分の考えを進んで表現する子どもを育てる」
—互いに関わり合う特別活動—

大阪市立異南小学校 近藤美穂

1. 研究主題設定の理由

本校では、「人間性豊かな子どもの育成」を目標に「よく考える子 思いやりのある子 力いっぱいやり抜く子」を目指す子ども像として日々教育活動を進めている。

平成 30 年度から令和 3 年度にかけて国語科を研究教科とし、成果として児童は文章を読み取る力は向上したが、読み取ったことをもとに自分の考えを表現する活動が課題として残った。

そこで、昨年度より、学級の中で人との豊かな関わりを通して自ら学び、自信をもって自分の考えや意見を表現できるようにするために「主体的・対話的で深い学びを実現するために 自分の考えを進んで表現する子どもを育てる」を研究主題として取り組んだ。

2. 研究の趣旨

昨年度は「学級活動」での話し合い活動の研究に取り組み、「主体的に話し合いを進める工夫」を視点として、司会の話し合いの進め方・学級会ノート・板書の仕方について指導した結果、話し合い活動では、自ら進んで考えや意見を発表することができるようになった。また、自分の考えと友だちの意見を比べることで、新しい考えを創り出すことができるようになった。さらに児童は、学級活動を通して他者と協同しながらよりよい学級をつくることができ、主体的に自分たちの生活をよりよくしようとする態度が育ってきた。また、研究を進めていく中で児童は、学級を超えて他の学年や学校全体への取り組みに目を向けるようになった。

本年度は、「特別活動」を研究テーマとし、学級活動を基本として、学級の枠を超えた多様な集団における児童会活動の研究を進め、自発的・自治的に活動することを通して学校の生活をより豊かにすることを目指すことにした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① よりよい学校生活を送るための課題を立て、その解決に向かう話し合いの工夫

学級や学校生活における生活をよりよくするための課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践することができるための話し合いの工夫をする。

視点② 子どもの成長につなげるための評価の工夫

児童一人一人のよさや可能性を積極的に認めるようにするとともに、自ら学び自ら考える力や、生きる力として自己を律しつつ他者とともに協調できる豊かな人間性や社会性などを育成するという視点から評価を進めていく。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① よりよい学校生活を送るための課題を立て、その解決に向かう話合いの工夫について
 - 学級活動(1)では「出し合う」「比べる」「決める」の3段階の討議法を活用し、学級活動(2)(3)では「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」の4つの思考過程を重視して指導することで、児童は、今考えることは何かをしっかりと把握しながら話合いを進めることができた。
 - 話合いでは、自分の意見を事前に「学級会ノート」に書くことによって、自分の意見を発表することができ、より活発な話合いとなった。また、友だちの意見や考えを互いに認め合うことで、自分の考えと友だちの考えを比較したり、取り入れたりすることができ、話合いに深まりがみられるようになった。
 - 意見を分類して比べやすくするために Y チャートを活用して可視化することで、児童はそれぞれの特徴を比べながらめあてに沿った話合いを行うことができた。
 - 議題箱の設置により、身近な課題を自分たちの話合いで解決したいという意欲を高めることができた。
 - 委員会活動では、「委員会活動ノート(個人用)」を活用し、委員長が事前に担当者と打ち合わせをすることで、月に1度の定例活動では委員長を中心に話合いを行い、常時活動へと進めることができるようになった。また、話合いの仕方が定着しているので、委員会での話合いも自分の意見を積極的に発表し、活発な話合いになっていった。

② 子どもの成長につなげるための評価の工夫について

- 学級活動(1)では、「学級会ノート」の振り返りで自己評価を行うことにより、次への活動への意欲を高めることができた。
- 学級活動(2)(3)では自己評価カードに「自分が決めたこと」を書くことによって、常に意識させることができ、実践的に生活に生かせるようになった。
- 振り返りの際、さらに自分の頑張ったところやよくなったところを発表し合う時間を設け、友だちのよいところも認め、励まし合うことができた。また、それぞれの自分の役割を、責任をもって果たすことによって、役割分担の必要性も分かるようになった。
- 各委員会において、活動内容で委員会児童同士がお互いに声をかけ合うことによって、常時活動が充実するようになった。また、委員会児童のアイデアを生かした活動も話合いによって生み出すことができた。

(2) 今後の課題

- 話合いで、多数決での決定ではなく全員が認める合意形成での決定の進め方をさらに追求していく。
- 児童の実態に応じた支援の仕方を探る。
- 効果的なチャートの選択と活用についての研究をさらに深める。
- 特別活動が「キャリア教育の要」であることの趣旨を踏まえ、教育活動全体を将来や社会づくりにつなげていくようにする。